

[解答]

直線的に進む場合には、相対渦度は 0 である（つまり、ア～エの流れはいずれも始めの直線部分では相対渦度 0 である）。また、高気圧性の流れでは時計回りに、低気圧性の流れでは反時計回りに流れる。つまり、イ、ウの回転部分が高気圧性の流れ、ア、エの回転部分が低気圧性の流れである。ところで、自転による渦度は北へ行くほど大きくなる。そこで、北へ行く流れは渦位が保たれるためには、相対渦度が減少しなければならない。つまり 0 負にならないといけないので高気圧性でなければならない（ウ）。次に南に行く流れは、渦位が保たれるためには、相対渦度が増加しないとけない。つまり 0 正とならなければならないので、低気圧性でなければならない（エ）。 肢
4

[ポイント]

問題文にヒントが多く書かれていますので、この意図を読み取る読解力が必要です。ただし、直線部分で相対渦度が 0 であるという知識は書かれていないために必要となります。